

令和5年度事業報告及び、令和6年度事業計画(重点事業)

地域包括ケアシステムの深化に向けて

各センターを中核として、本市ならでは「地域力」や「地域の絆」を最大限に生かした公民館単位のきめ細かい取組みをもとに、日常生活圏域において医療・介護をはじめとする様々な関係機関との連携を進めることで、地域住民、関係機関、行政が一体となり、地域ぐるみで多様なニーズを持つ高齢者の暮らしを支援する。

項目	令和5年度 運営方針(重点事業)	実施状況	成果	次年度への課題	令和6年度計画
1. 高齢者のほか、障がいのある方や子供、生活困窮者などの地域の重層的な窓口機能の充実	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括支援センターに障がいのある方や子供、生活困窮者などの地域の重層的な総合相談窓口を付加し、ワンストップ窓口としての機能の充実を図る。 全世代に、どこに相談したらよいか困った時に地域包括支援センター(ふくしなんでも相談所)に相談できることを周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> 福祉推進員と民生児童委員、医療機関・金融機関・商店・コンビニ等にふくしなんでも相談のチラシを配布した。そのほか地域の個別訪問等の際にもあわせてチラシを配布し、ふくしなんでも相談所の周知をした。 <出張福祉なんでも相談所> <ul style="list-style-type: none"> イオン松江店 9回 松東：福原ふれあい広場 7回、菅田会館暖談喫茶 4回、菅田会館暖談喫茶 6回 中央：湊北台団地 6回、雑賀公民館喫茶 6回、しじみサロン 12回、市営東朝日町 AP 2回 松北：古浦 de あさいち 8回、いくまカフェ 3回 湖南：公民館喫茶 忌部 11回、玉湯 4回、乃木 5回、宍道 12回、宍道ベル 12回 松南第1：市営大庭アパート 1回 松南第2：竹矢公民館喫茶 3回、八雲公民館喫茶 2回 	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括支援センターと CSW で合計 120 件のふくしなんでも相談を受け付けた。 処遇困難・多問題世帯については、社協内対策会議 16回、検討ケース 15件・支援会議 6回、検討ケース 1件・評価 8件・重層会議、検討ケース 1件、評価 1件で、支援方法について協議し対応した。 出張福祉なんでも相談所は 17 会場で実施し、適切な支援につなげた。 	<ul style="list-style-type: none"> チラシ配布と合わせて、あらゆる世代に届く周知方法を検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な相談窓口として、ふくしなんでも相談所の周知を図る。 気軽に相談できるように出張福祉なんでも相談所を継続する。
2. 地域の高齢者の支援、実態把握	<ul style="list-style-type: none"> 個別ケースの地域ケア会議等を活用した適切な個別支援を実施する。 多職種の助言により自立に向けた個人の状態の改善、重度化防止の対応策を検討する。 参加者が地域ケア会議の趣旨を理解し、スキルアップを図ることで、より質の高い会議の開催を目指す。 必要に応じ、専門機関のアドバイザーが参加し、より具体的な支援方法の助言を得ることで個別課題、地域課題の解決を図る。 地域、親族、支援者等の関係者が集まり、情報共有を行い支援方針や役割を確認し、地域生活課題の解決に向けた働きかけを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> <松江市個別地域ケア会議(定期開催、専門職参加)> <ol style="list-style-type: none"> ①年 12 回開催、計 71 事例を検討した。 ②評価会議を 2 回開催し、計 71 事例を評価した。 ③助言を受けて利用者本人やケアマネに良い変化があった好事例 5 事例を松江市個別地域ケア会議事例集第 3 版に掲載し、社会福祉協議会ホームページ掲載した。 <助言者・事例提出者研修会> <ol style="list-style-type: none"> ①R5. 8. 17 助言者研修会 <ul style="list-style-type: none"> 講義「助言のポイント」、模擬地域ケア会議 参加者:助言者 29 名、包括職員 28 名、島根県地域包括ケア推進室室長 ②R5. 12. 19 ケアマネ研修会(会場・web) <ul style="list-style-type: none"> 講義「豊かな人物像を描くアセスメントのコツ」 参加者 82 名(会場 30 名、Zoom 52 名) 内訳 ケアマネ 47 名、包括職員 35 名 <個別地域ケア会議(包括ごとに随時開催)> <ul style="list-style-type: none"> ・77 回開催し、延べ 92 事例を検討した。 <圏域別の地域ケア会議(地域課題を検討)> <ul style="list-style-type: none"> ・延べ 71 回参加。第 6 次地区地域福祉活動計画の年であり、各地区の策定委員会等に参加し、地域課題の情報把握・共有や地域課題解決に向けて検討した。 	<ul style="list-style-type: none"> 評価会議で地域課題「低栄養、BMI 18.5 以下」について専門職と協議した。予防策・改善策として食事、口腔機能、運動、地域参加等様々な視点の意見が出た。 事例集の助言が支援方法の参考になるとの感想が多く寄せられた。 <助言者・ケアマネ研修会> <ol style="list-style-type: none"> ① 模擬地域ケア会議を通して、質問や助言のポイントについて学ぶことが出来た。 ② 「その人が生きた時代等を考えると、その人の理解につながり、その人の生活歴に意味を持たせるというお話があり、その人を知るコツを学んだ。 <個別地域ケア会議> <ul style="list-style-type: none"> ・事例として、若年性認知症の方の居場所や身寄りがない方の支援、災害時の避難行動の支援、見守り体制等を検討し、関係者と役割分担をして対応した。 <圏域別の地域ケア会議(地域課題を検討)> <ul style="list-style-type: none"> ・地域課題「居場所づくり」「災害時の備え」「買い物や移動支援」等、第 6 次地区地域福祉活動計画に取組みが記載された。 	<ul style="list-style-type: none"> 助言者は固定していないため、繰り返し研修を行い、啓発を継続していく必要がある。模擬地域ケア会議を通じたグループワーク研修は有効であり、今後も継続する必要がある。 低栄養を早期発見するためのアセスメントの視点、改善策や予防策などの提案を周知していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自立支援型の松江市個別地域ケア会議を定期開催する。 助言者研修会は、模擬地域ケア会議を通じたグループワーク研修を今後も継続する。 ケアマネ研修会は、低栄養の早期発見、改善策、予防策をテーマに開催する。

<p>3. 権利擁護に関する連携・支援</p>	<p>高齢者虐待等の早期発見、発生予防の取り組み。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者虐待の防止と早期発見をテーマに、ブロック連絡会を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待対応は実人員 84 人(新規 67 件、継続 17 件)、対応延べ 376 回。速やかに事実確認を行い松江市と協議を行った ・R5. 10. 26 ブロック連絡会「高齢者虐待防止の理解」 ・「高齢者虐待について～経済的虐待の視点～」受講者：98 人であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者虐待対応に向けて関係者が共に学ぶことで、早期の通報・相談・解決に向けての啓発を図ることができた。 ・虐待に至った経緯を関係者で情報共有し、被虐待者の安全な生活を確保することができた事例があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待に至った状況を集積・分析して、虐待防止の取り組みを検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者虐待防止の研修や周知を継続する。 ・高齢者虐待再発防止のため、養護者の置かれた状況を確認し、適切な介護サービス利用を促進するなど養護者の負担軽減を図る。
	<p>成年後見制度をはじめ高齢者の権利擁護に資する制度・事業の普及啓発及び利用促進。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療、介護、施設、行政の関係者と共に、身寄りのない人への支援ガイドラインの啓発をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・松江市に市長申し立てを 3 件要請した。 ・親族申し立ての支援を 21 件行った。 ・R6. 1. 18「身寄りのない人への支援研修会」（講師：NPO 法人「やどかりサポート鹿児島」NPO 法人「つながる鹿児島」理事長 芝田淳氏）を開催、受講者 107 名であった。 ・身寄りのない人への支援の実態を把握するためのアンケートを行い、267 事業所へ送付、119 件から回答があった。 ・新規困難ケース 13 件・継続困難ケース 17 件あり、その内 4 件の事例検討を助言者（弁護士・精神保健福祉士・臨床心理士の専門員）と共に行い、支援者会議を開催した。ケースの課題解決に向けた支援検討をステーション会議等で行った 	<ul style="list-style-type: none"> ・親族申立ての支援が増えた。 ・身寄りのない方の支援について、支援場面での課題、先進地の取り組みを周知できた。 ・身寄りのない人への支援の実態を把握するためのアンケートを行い、課題の把握を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身寄りがいない人への支援について、今後さらに課題を分析し課題解決を協議する場を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身寄りのない方への支援について、身寄りのない方への支援ガイドラインと ACP の周知をセットにした市民啓発を行う。 ・身寄りがいない人への支援について、今後さらに課題を分析し課題解決を協議する場を検討する。
<p>4. 介護予防の取り組みの推進</p>	<p>介護予防が必要な対象者の早期発見、早期対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般高齢者に対して通いの場への参加継続を促し、介護予防メニュー等への参加を勧める。 ・総合相談を通じて、「からだ元気塾」や「なごやか寄り合い」など、地域の身近な通いの場への参加に繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で開催した教室（51 回）の参加者や、実態把握訪問をした 1,026 名に通いの場への参加継続やフレイル予防、免許返納に関する注意等の啓発を行った。総合相談の場面でも同様に、チラシを活用しながらフレイル予防の啓発や通いの場の紹介をした。 ・松江市の保健師が実施したフレイルチェックで 8 点以上であった 79 名に個別訪問を行い、地域の活動の場への参加や介護予防教室への参加の声掛けを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で「外出の機会が減った」「人と会う機会が少なくなった」等と話されることが多く、そういった方に対してからだ元気塾や地域の会などへの声掛けが出来た。 ・令和 5 年度末(R5. 3. 31)現在、地域包括支援センターからの声掛け等をきっかけに、338 名が「からだ元気塾」の新規利用に繋がった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の影響で、外出の機会や地域の寄り合いなどの交流の場の減少がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般高齢者への介護予防(低栄養などフレイル予防)の啓発を継続する。 ・市民や関係機関に対して総合事業についての周知を図る。 ・地域の身近な通いの場や介護予防活動への参加勧奨をする。
<p>5. 認知症の人やその家族等に対する支援体制の構築</p>	<p>認知症に対する正しい理解の普及啓発などの様々な機会を活用し、地域の関係機関・団体・企業等との連携を促進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・松江市が主催する認知症カフェに参加。その他、各地区でのオレンジカフェに参加し、参加者からの相談を受けた。 ・松南第 2 包括エリア、湖南サテライトエリアでは、チームオレンジの立ち上げに参加、協力を行った。 ・9 月アルツハイマーデーの街頭活動に参加し、相談窓口の周知をおこなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・松江市オレンジカフェには 11 回参加し、36 名の家族からの相談を受け、対応の助言や担当包括に繋げる事ができた。 ・チームオレンジの立ち上げなどに関わり、新たな地域資源と包括との繋がりを持つことができた。 ・アルツハイマーデーの街頭活動に参加し、市民への周知と、認知症の人と家族の会との繋がりがもてた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の相談窓口の周知を行う必要がある。 ・次年度も様々な場面で見守りネットワーク協力者を募る必要がある。 ・若年性認知症の方の課題把握と支援体制について検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・若年性認知症の方の支援について検討する。

	<p>行方不明の恐れがある高齢者の事前相談により、見守りネットワーク事業の紹介や登録を進める。</p> <p>また、サービス事業所、地域福祉組織、高齢者見守りネットワーク事業の協力事業所、警察等との協働による見守り体制の構築を行う。</p> <p>・GPS 端末貸与事業を実施し、事業の有効性をモニタリングする。</p>	<p>・GPS 端末機は新規利用 14 名、継続利用 9 名に貸し出した。返却者は 13 名あり、返却理由は「入院」「認知症の進行で外出しなくなった」であった。</p> <p>・見守りシールは令和 5 年度に 37 名の申し込みがあり、累計 134 名に配布した。</p> <p>・今年度の未帰宅事案発生のメール配信は 3 件だった。</p>	<p>・GPS 所持することで、安心していているという声が多かった。</p> <p>・未帰宅で発見された人のうち見守りシールの登録者が 1 件であった。所持している事で安心して繋がっているケースが多い。</p> <p>・3 月末で見守りネットワーク協力者は 1,479 人であり、微増であった。</p>	<p>・GPS 貸与を引き続き行う。また、貸与期間の 1 年が終了した方への対応について検討が必要である。</p> <p>・引き続き見守りシールの効果をモニタリングしながら、必要な方への普及をすすめる。</p>	<p>・GPS 端末機貸与事業、見守りシール配布事業の実施とモニタリングを行い、切れ目のないサービス提供を行う。GPS 貸与、見守りシールについての市民周知を必要がある。</p> <p>・認知症になっても安心して暮らせる地域づくりを推進するため、認知症の理解者や見守りネットワークの協力者の拡大をはかる。</p>
<p>6. 医療・介護をはじめとする多職種の地域ネットワークの充実・強化</p>	<p>日常生活圏域における多職種連携会議等を通じ、医療・介護・地域福祉組織等の多職種の関係機関との連携体制を構築し、地域課題を検討する。</p> <p>・多職種連携会議の開催支援を行う。</p>	<p><宍道地区></p> <p>・しんじワーキング倶楽部は、全体向けの研修会を 1 回、スタッフ会を 10 回開催。専門家派遣事業の依頼は今年度なかった。</p> <p><本庄地区></p> <p>・本庄地区医療・介護連携会議は、居宅・小規模ケアマネを対象として開催。内容の検討と振り返りのためのワーキング会議を 4 回、連携会議を 2 回開催した。</p> <p>【第 1 回連携会議(6/20)】参加者 36 名、内容：情報交換。</p> <p>【第 2 回連携会議(11/16)】参加者 33 名、内容：高次脳機能障害の理解</p> <p><東出雲地区></p> <p>・やらこい東出雲 研修会『誤嚥性肺炎予防について』歯科医師の講義・グループワーク(9/20) 参加者 33 名。</p> <p>BCP 情報交換会(11/20) 参加者 13 名</p> <p>スタッフ会 7 回・医師との懇親会 1 回。</p> <p>地区防災連絡会に年度末に参加。</p> <p><松北地区></p> <p>・幹事会 2 回、居宅ケアマネの集い(9/13)、パネルディスカッション「地域における終末期医療・ケアの現状と課題について」(11/30)、運営会議(3/4)</p>	<p><宍道地区></p> <p>全体研修会を 4 年ぶりに開催することができ、参加事業所と横の繋がりを再認識する事ができた。また、年間 10 回のスタッフ会をおこない、年度初めに年間計画を立て、実施した。</p> <p><本庄地区></p> <p>連携会議の内容を検討したり役割分担や振り返りをするなど、ワーキング会議の機能を果たすことができた。</p> <p><東出雲地区></p> <p>集合形式での研修会を年間 2 回実施。数年ぶりの医師との懇親会もスタッフのみだった。が実施。次年度に向けてスタッフの増の方向になった。</p> <p><松北地区></p> <p>パネルディスカッションを受け、保健所において地域包括ケアの市民向けの資料を作成した。</p>	<p><宍道地区></p> <p>出前講座の依頼が 1 件もなかったため、地域に対する啓発などを行う必要がある。また、地区社協との連携も必要。</p> <p><本庄地区></p> <p>コロナ禍を経て、日中開催を希望される参加者が多く、夜間開催であれば参加できる医師や定期訪問時間が決まっている訪問看護や訪問リハなど医療関係者に参加してもらうことができなかった。</p> <p><東出雲地区></p> <p>医療介護の連携を中心に研修会等を行ってきたが住民を交える形は 2 年前の小地域での避難訓練以降出来ていない。</p> <p><松北地区></p> <p>いい看取りの日の研修会は継続していく。限界集落についての話題があがったので、来年度情報交換する予定。</p>	<p>・地域住民、医療、介護等の関係者による多職種連携会議を開催し、日常生活圏域の地域課題を共有し、対応策の検討を行う。</p>

<p>7. 地域における生活支援体制整備に向けた資源の把握・情報共有等サービス創出に向けた関係機関との協働</p>	<p>生活支援コーディネーター（CSW 兼務）が担う地域資源の把握や分析などの活動に対し、支援・協力する。また、介護予防・生活支援サービス創出に向け、情報共有や検討を行う。</p> <p>・生活支援コーディネーター（CSW 兼務）と協働で、個別課題解決に必要な社会資源（人財、居場所、ネットワーク、サービス等）の開発を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・松東：透析患者の移送支援について、民生委員・支所保健師・地区社協事務局・市社協地域福祉課・CSW・包括で検討を始めた。 ・中央：東朝日町 AP のなんでも相談会を 2 回行った。住民主体通いの場「おまち竹の会」1 か所立ち上げた ・松北：古江地区民生児童委員、福祉推進員代表者、松北地区の介護支援専門員・相談支援専門員、施設管理者と防災について情報交換会を実施。 ・湖南：八曾利自治会と連携し、なごやか寄り合いし事業の新規立ち上げと福祉用具展示会を開催した。 ・松南第 1：「市営大庭アパート」で巡回相談を実施。大庭地区防災セミナーがあり、地域住民が 30 名参加した。包括職員も参加し、災害時対応についてのロールプレイを通し、被災者自身及び支援者側として具体的な対応の仕方について学びができた。3 月には大庭公民館で実際の避難行動を行い、防災についての啓発につながった。 ・松南第 2：相談支援事業所連絡会において、身寄りなく、将来的に支援が必要となる可能性の有る方々が多く居る事がわかった。今後の支援については協力体制をとれる可能性が出てきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通所型サービス B の立ち上げ 2 カ所（松南第 1：1 カ所・中央：1 カ所） ・災害時の対応など、関係機関と各地区の課題を踏まえ取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区地域福祉活動計画の実施にあわせ、地域の生活課題の共有や解決に向けて協議する機会を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・CSW と協力して、地域とともに地域課題の解決に取り組む。
---	--	--	--	--	--